

総合健診部

1. スタッフ（2024年4月1日現在）

【脳ドック】

部 長（准教授）	崎山 快夫 （脳神経内科）
室 長（看護師）	桑久保美幸
脳画像読影	
医 員（准教授）	崎山 快夫 （脳神経内科）
（助教）	林 夢夏 （脳神経内科）
	藤田 和樹 （脳神経内科）

放射線画像診断

医 員（准教授）	真鍋 治 （中央放射線部）
----------	------------------

内科的検査評価

医 員（教授）	尾本きよか （臨床検査部）
---------	------------------

心電図判定

医 員（准教授）	林 達哉 （循環器内科）
----------	-----------------

結果報告担当の先生方

非常勤医員（非常勤講師）	1 名
非常勤医員	1 名

【PET検診】【総合がん検診】

PET-CT検査判定

医 員（准教授）	真鍋 治 （放射線科）
----------	----------------

腫瘍マーカー判定

医 員（教授）	尾本きよか （臨床検査部）
---------	------------------

【膵がんドック】

副 部 長（教授）	野田 弘志 （一般・消化器外科）
-----------	---------------------

2. 総合健診部の特徴

1995年に脳ドックが開設され、2018年10月よりPET検診がスタートし、脳ドック部から総合健診部へ組織変更され、脳卒中とがんの早期予防という幅広いニーズに対応する画期的な部門となりました。

2021年8月より二次健診としてのアミロイドPETを開始しました。

また、2023年1月よりPET-CT総合がん検診、9月より膵癌ドックが開始されさらなる充実を図っています。

独立した健診施設ではなく、既存の設備を使用し、関連スタッフの協力により運営されていることが大きな特徴として挙げられます。

●認定施設

2010年4月 日本脳ドック学会認定施設

●認定医

日本脳神経学会 神経内科専門医	崎山 快夫
日本脳卒中学会専門医	崎山 快夫
日本内科学会認定総合内科専門医	崎山 快夫
日本外科学会専門医	野田 弘志
日本消化器外科学会専門医	野田 弘志

3. 実績

検診	実施日	実施件数
脳ドック	火曜日・木曜日	121
アミロイド	火曜日・木曜日	0
PET検診	水曜日・金曜日	16
総合がん	金曜日	33
膵がん	月曜日	25

\* 2024年1月から2024年12月までのデータ

脳ドックMR検査で発見された無症候性疾患

無症候性脳梗塞	15例（12.3%）
慢性脳虚血を表す白質病変	107例（88.4%）
無症候性微小出血	20例（16.5%）
脳動脈瘤疑い	16例（13.2%）

その他の諸因子

高血圧	70例（57.8%）
脂質異常	69例（57.1%）
糖尿病	31例（25.6%）

4. 2024年の達成度2025年の目標、事業計画など

2024年の実績では膵がんドック件数が前年に比べ2倍以上で16件増加しています。これは、近隣のクリニックへ伺って直接説明してパンフレットを設置していただく、新聞社等に記事の掲載を依頼するなどの広報活動を通して膵癌ドックの受診をアピールした成果だと思っています。

PET検診、総合がん検診は脳ドックを定期的に受診してくれる方々にパンフレットを見て頂き、説明をするな

どの職員の意識的な行動の効果もあると考えます。

アミロイドPET検診は認知症に特化した二次健診で高額になってしまうことと、保険診療との差別化が難しいため、受診していただくのは難しい現状があります。

脳ドックについては受診件数が昨年より24件減少しましたが、毎年もしくは2年に一度定期的に受診していただくリピーターの方々が多くいらっしゃいます。また、オプションの認知症検査にブレインシートを取り入れたことで、生活指導により記憶を司る海馬の成長を助けて認知症予防につなげることができます。物忘れが気になって脳ドックを受けようと思ったという方々が非常に多いため、ブレインシートをさらに広めていくことで受診者数を増やせると考えます。

現在の日本において最も多い要介護の原因とされているのは脳卒中と認知症と言われています。脳ドック学会が特にその役割として進めているのは脳卒中、認知症を予防して健康寿命を延ばすことです。認定施設として役割を果たして行くためにもさらに脳ドックの受診件数を増やしていき健康寿命の延長に寄与したいと思います。